

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 8 日作成)

小委員会名	建築手法・技術小委員会	主 査 名：阿部浩和 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築教育委員会	委員長名：元岡展久 主 査 名：
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2015 年度：多角的に課題を探り、情報共有化を行う 2016 年度：事例収集、課題にたいする対応策の検討 2017 年度：事例収集、中間評価 2018 年度：成果報告	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：	
	主 査 阿部 浩和 (大阪大学) 幹 事 安福 健祐 (大阪大学) 小林 正美 (明治大学) 澤田 英行 (芝浦工業大学) 田村 雅紀 (工学院大学) 浜島 一成 (日本大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	BIM 設計教育手法 WG 材料教育検討 WG	
2018 年度予算	230,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/edu/s0/

項 目	自己評価	
委員会開催数	1 回 (年度内計画を含む)	
刊行物	「つながるための BIM—超スマート社会がもつめる建築とつかい方 (仮題)」 ・日本建築学会編 (建築教育委員会/教育手法・技術小委員会/BIM 設計教育手法 WG) 2019 年 4 月刊行予定	
講習会		
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. (名称) 第 18 回建築教育シンポジウム	参加者数 19 名
大会研究集会		
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 18 回建築教育シンポジウムの特別講演として「手で考えて身体でつくる建築 デザイン教育」を開催した。 2. 同シンポジウムでは広く建築教育に関する多くの研究成果が発表された。 これらは当委員会の対外的意見表明である。	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 建築教育の分野ごとに建築教育の問題点を検討するとともに、情報共有を行 い、大学連携、産学連携など実施可能な試みを探ることができた。 2. 建築教育シンポジウムを開催し、建築専門教育、住環境教育、市民教育、並び に教育制度、教育手法など広く建築教育に関する研究成果が得られた。	
委員会活動の問題点 ・課題	WG 数は少ないが、その活動は活発で充実していた。	

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。